


## weekly-パクリタキセルの治療をお受けになる方へ



パクリタキセルは、分裂増殖が盛んな細胞に作用します。正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞は、薬の影響を受けやすく副作用として現れてきます。以下に、パクリタキセルによる治療の副作用をご説明しますが、これらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。

### ◎通常スケジュール

薬の名前	1日目	2~7日目
成分名：パクリタキセル		お休み

※上の表の7日を1回の治療として繰り返し行います。症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

### 一日のスケジュール

レスタミン錠を5錠飲んでいただきます。

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
	15分	生理食塩水50ml グラニセトロン デキサート ファモチジン	グラニセトロン/デキサート; 吐き気を抑える。 ファモチジン; アレルギー予防
	30分	生理食塩水100ml	生理食塩水; 状態の観察。
	60分	生理食塩水100ml パクリタキセル	パクリタキセル; 腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認

## ◎起こりやすい副作用について

### ●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。  
点滴治療の場合には点滴終了後3日程度と言われていた  
症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります。

### ●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じる場合があります。多くは点滴後3日間程度と言われて  
います。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいと言わ  
れています。

### ●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなりま  
す。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛み  
などがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。歯茎からの出血や鼻血の症状  
に注意が必要です。

### ●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使うことがあります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります。

### ●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

### ●味覚障害

味覚障害は、甘味、塩味、酸味、苦味、旨味の5つの基本味の変化に対する症状であり、具  
体的には何を食べても味が薄く感じる(味覚減退)や味を全く感じない(味覚消失)などを生じ  
る場合があります。

### ●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日  
後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせくださ  
い。点滴の種類によっては点滴する腕を温めて点滴をします。

### ●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

### ●脱毛

この治療は脱毛の頻度が高いと言われています。毛が抜けやすくなる、髪を洗ったときに多量の毛髪が抜けるといったことがあります。個人差はありますが、薬の投与2～3週間後から多く起こり、髪以外の部分(体毛・眉毛・陰毛)でも起こります。髪は、抗がん剤の治療が終われば3～6ヶ月後には再び生えてくる場合が多いです。

### ●末梢神経障害

慢性の症状・・・治療を繰り返していくと手足の持続的なしびれや痛みが生じてくる場合があります。(日常生活に支障をきたすこともありますのでボタンがしにくい、つまづいてこけそうになる、箸がもちにくいなどの症状があるときは我慢せずに相談しましょう)

### ●関節痛・筋肉痛

治療2～3日後に、肩や背中、腰や腕などの筋肉が痛くなったり、関節が痛くなることがあります。ほとんどは一時的で、5～6日以内に回復します。

### ●アルコール過敏

この抗がん剤は水に溶けにくいいため、アルコールを使って溶かしています。注射時のアルコール消毒で皮膚が赤くなる方、少量の飲酒で顔や全身が赤くなったり、具合が悪くなったりする方はお知らせください。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、  
気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または  
看護師にご相談ください。

担当薬剤師